

# 総務省地域情報化アドバイザー優良事業事例

## 優良事業事例団体

団体名:春日井市

- 人口 :311,798人(平成31年3月1日)
- 面積 :92.78平方キロメートル
- 主な産業 :製造業、卸売業・小売業
- 地域情報化アドバイザー名 :浦田 真由 氏
- 派遣対応年度 :平成29年度
- 派遣回数 :1回
- 支援形態 :個別アドバイス
- 支援分野 :情報発信



## 優良事業概要

■事業名:春日井市プラットフォームアプリ開発事業

■事業の概要:行政から市民等へ情報を提供する手段としては、主に広報誌やホームページ、SNS等があります。しかし、広報誌が配布されても読まない市民が少なくないこと、ホームページに多大な情報が掲載されており、市民が欲しい情報にピンポイントに辿り着けないこと等、既存の情報発信手段では、必要な情報を受け取れない市民も多くいます。多様化するニーズ、情報発信・収集手段の中で、いかに必要な情報を必要な市民に提供できるかが広報業務のみならず、行政全般において課題となっていることから、新たな情報発信ツールとしてプラットフォームアプリを開発することとしました。

■依頼内容:①平成29年度中に開発を予定していたプラットフォームアプリをどのような内容にするかを、公募市民と一緒に協議する場において、自治体アプリの現状と使いやすさをどのように考えていくべきかを講義していただくこと。②市若手職員によるICTとGISの利活用を図るワーキンググループのメンバーに向け、ICTの利活用についての講義をしていただき、メンバーの見識を深めてもらうこと。

## 地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

■支援を受けた内容:①②それぞれ、講義をしていただきました。

①は、「自治体アプリに求められるもの」と題し、スマートフォンの普及状況と自治体アプリがどのようなものがあるかを実際の端末を使って、特徴的ないくつかのアプリの使い心地を体験し、どのような機能や構成が使いやすいかを考える講義でした。②は、「ICTやオープンデータを活用した市民サービスと相互交流」と題し、オープンデータの公開が自治体にとってどのような効果が見込めるのかを、実際の活用例も示しながら解説をいただきました。



①アプリ開発会議での講演



②職員向け講演

# 支援を受けた事業の最新状況

■ 平成30年3月1日に公開した春日井市公式プラットフォームアプリ『春ポケ』は、市からのお知らせや各種イベント情報、施設情報など、春日井市で役立つ情報を利用者へ提供するアプリです。情報の提供に加えて、『かすがい健康マイレージアプリ』、『ごみ分別促進アプリ』も表示でき、「春ポケ」ひとつで様々な情報や市公式アプリを管理することができます。

公開から順調にダウンロード数を伸ばし、平成31年3月1日現在、9,000ダウンロードを超えました。また、WAUも3,000ユーザー/週を達成しており、市の情報発信ツールとして定着してきています。



## 地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

■ 総務省のホームページから

## 地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

■ 評価・感想 : 浦田先生には、派遣後もプラットフォームアプリ開発会議の委員としてアプリ公開までご助言をいただき、アプリで何を発信したいかを明確にすることが大事であることを公募市民の皆さんと共有することができました。



公募市民の皆さんと

また、その後もICTについて情報交換を重ねる機会をいただき、所属される名古屋大学大学院情報学研究科 安田・遠藤・浦田研究室とごみ分別アプリを提供している会社と一緒に産学官連携で、AIスピーカーでの「ごみ出し情報」を公開することもできました。



市ホームページより